



2014年 春号

URL : <http://www.karashi.net/>

日本の「ものがたり」を見直す好機

東日本大震災から三年が経ちました。この三年間は私にとって日本文化と向かい合う時となりました。これまで「当たり前」のこととして疑うことすらしなかった日本人としての常識に新たな光を当てられたかのように感じさせられています。

確かに勤勉、忠実、正直、丁寧、清潔など日本文化の素晴らしい面は高く評価されて当然です。しかし、今回の原発事故が顕にしたことは、高レベル放射性廃棄物の最終的な処分法もないままに「臭い物に蓋」をして、「キジも鳴かずば撃たれまい」と反対者を封じ込め、原子力発電が絶対に安全なものであると信じ込まされてきた現実に愕然とさせられたのは私だけではなかったと思います。

長い歴史の中で日本人としての私たちの DNA の内に埋め込まれてきたものは、人々の間で言い伝えられてきた諺や歌などに表現されています。その中で、どれが私たちを良い方向に導くもので、どれがそうでないのかを見分けて、「嘘」を「真理」に置き換える作業が必要とされているのではないでしょうか。

「出る杭は打たれる」と言っていたら、優秀な人材は日本を脱出することでしょう。「赤信号みんなで渡れば怖くない」と言っていたら、世界は日本人を恐ろしいことをしでかす危険な民族だと思うことでしょう。「長いものには巻かれろ」と言っていたら、権力者をのさばらせ、弱い立場にある人々はますます大変な状況に追い込まれることになるでしょう。

国や権力者が市民の権利を踏みにじってきたこれまでの日本の「ものがたり」を明るみに出し、日本人が個人として真の意味での自由に生きる解放の「ものがたり」に置き替えていく作業こそ私たちにいま委ねられている使命ではないでしょうか。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* FVIの働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。 献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」とカタリスト名をご明記ください。